

サプライチェーンにおける社会・環境配慮

自社における重要性

TDKグループは、サプライヤーおよびバイヤーの両機能を果たす川中企業であり、サプライチェーンにおける社会・環境への配慮によりリスク回避を図ると同時に、教育・指導によりサプライチェーンの競争力を強化する。

ステークホルダーからの期待

サプライチェーンにかかる法制度や国際的な業界規範への対応・遵守はもとより、サプライヤーに対する支援等の社会的責任の遂行。また、紛争鉱物問題など企業(事業)活動による社会的影響の是正。

基本的な考え方

「サプライチェーンにおける社会・環境配慮」は、川中企業であるTDKグループにとって非常に重要な課題と認識しています。関連する法制度や国際的な業界規範等の最新要請内容を踏まえ、サプライヤーの責任として自社グループの生産拠点の労働環境配慮の状況、そしてバイヤーとして取引先の労働環境配慮の状況、それぞれを把握し、必要に応じて改善に向けた教育・指導を実施し、川上から川下まで強固なサプライチェーンを構築し社会的責任を適切に遂行します。

2015年度の主な実績

CSR監査受審件数 (2014年度～2015年度累計)

CSR監査の受審は、CSR活動のレベルアップの機会ととらえています。一方、サプライチェーン全体でCSR活動を強化する動きの中で、各社独自のCSR監査の重複が対応の混乱・疲弊につながることが懸念されることから、CSR監査受審件数を重要な側面と考えています。今後も、受審件数を把握し、バリューチェーン全体でより効果的なCSR監査の実施方法を追求していきます。



お取引先様CSR チェックシート (改善指導社数)



お取引先様とともに企業価値を高め合うCSR調達を実現するためには、お取引先様自身の気づきと自己改善が重要と考え、お取引先様CSRチェックシートの改善指導社数を重要な側面と考えています。

紛争鉱物対応 (紛争に関与していないことを確認したアイテム比率)

紛争鉱物に対するお客様からの期待は、TDK製品に含まれる鉱物が、紛争に関与していないことです。そのため、サプライヤーに対しては同様の期待を要請するとともに、調査を継続的に実施しています。



紛争鉱物(コンフリクトミネラルズ)への対応

紛争鉱物への対応は、川中企業のTDKグループにとって重要なテーマの一つです。責任ある鉱物調達への関心が年々高まり、グローバルな取り組みが加速する中、TDKは自社での活動はもちろんのこと、ステークホルダーとともに課題解決に向けた取り組みをサプライチェーン全体で推進しています。

TDKにおける取り組み

コンゴ民主共和国および隣接国産の鉱物は、武装勢力の資金源となることがあり、紛争の助長や地域住民に対する人権侵害が社会問題となっています。TDKでは、米国金融規制改革法が成立した2010年より紛争鉱物対策を開始。2013年4月に、TDKグループの「紛争鉱物」に関するポリシー※1を制定し、お取引先様への調査を本社資材機能が、お客様への回答を本社品質保証機能がそれぞれ主管するとともに、各ビジネスグループに責任者および担当者を設けています。

お取引先様には、CFSI※2の紛争鉱物報告テンプレート(CMRT※3)を使用した調査を実施。新規購入品に関する調査を定期的に行い、過去の調査で製錬所が特定できていない品目については、再調査を実施しています。2013年度の調査より対象となった15,754品目のうち、86%※4で紛争に関与していないことを確認しました。

また、お客様からの問い合わせに対し、営業部門における受付から事業部門における回答までを一元管理し、迅速かつ正確に回答する体制をとっています。2015年度は、前年度比16件増の2,505件に回答しました。さらに、紛争鉱物問題の解決には、サプライチェーン全体で取り組む必要があるとの認識のもと、業界団体と連携しています。

※1 TDKグループの「紛争鉱物」に関するポリシーは、WEBをご覧ください。 http://www.tdk.co.jp/csr/supplier_responsibility/csr02210.htm
 ※2 EICC(電子業界行動規範)とGeSI(グローバル・eサステナビリティ・イニシアティブ)が設けた紛争鉱物問題に取り組む組織
 ※3 CMRT: Conflict Minerals Reporting Template ※4 対象は、TDK株式会社と取引のあるお取引先様です。

VOICE

川中企業の立場から課題解決に向けた提案をしていきます

JEITA「責任ある鉱物調達検討会」※5に参画しています。紛争鉱物の問題は、多くのステークホルダーが関係するため、自社単独での課題解決は困難で、連携が不可欠です。JEITAは、この問題解決を主導しているCFSIと連携しており、課題解決に向けた提案を出すことで、国際的に影響を与えることができます。また、サプライチェーンに係る調査の共通化・効率化は、サプライチェーン全体のコスト削減に大きく寄与することから、データ交換の国際規格やガイダンスなどのルール策定に参画しています。今後も川中企業として多くのお客様およびお取引先様との関わりでの経験を踏まえた提案をしていくことで、サプライチェーン全体の効率化に貢献していきたいと考えています。

※5 JEITA「責任ある鉱物調達検討会」の詳細は、WEBをご覧ください。
<http://home.jeita.or.jp/mineral/>



TDK株式会社
経営管理本部
総務グループCSR室
小林 寛

COMMENT

知見と経験を活かし、より効率的な経営資源の活用を期待します

TDKには、JEITA「責任ある鉱物調達検討会」のデータ転送標準化対応チームのリーダーとして、特に、取引先と製錬所情報を共有する世界共通のツールCMRT改訂の際の日本の意見の取りまとめ役を担っていただいています。CMRTは、記入のしやすさや内容の難易度とのバランスが求められる中、TDKには、製品に含まれる化学物質のサプライチェーンにおける経験を活かしていただくことを期待しています。

紛争鉱物への対応は、米国の法制化に始まり、現在では欧州における関連法令の検討、中国での業界団体とOECD共同によるガイドラインの策定など、世界的な広がりを見せています。TDKのような企業とともに、中心課題である人権問題の持続的な解決に向けて貢献していきたいと思っています。



一般社団法人
電子情報技術産業協会(JEITA)
国際部 国際グループ長
山崎 昌宏 氏



サプライヤーとしての取り組み

お客様が製品を調達するサプライヤーであるTDKは、自社拠点での社会・環境配慮に努めています。セルフチェックや監査などを通して、企業価値の向上につながるCSRを推進しています。

TDKの生産拠点での取り組み

TDKでは、CSR活動の課題把握とお客様への迅速な回答を目的に、EICCをベースとした「TDK CSRセルフチェックシート」を作成し、すべての生産拠点で自己診断を毎年実施しています。また、近年増加しているお客様による「CSR監査」の機会を、CSR活動レベル向上の機会と捉え対応するとともに、リスクの高い地域・生産拠点においては、お客様による「CSR監査」を含め、2年に1回、第三者機関による内部監査を行っています。こうした「CSR監査」が求める内容を体系的に理解し、生産拠点でのCSR活動のレベルアップを目的とした「CSR内部監査員養成研修」を、2013年より毎年実施しています。

CSR監査への対応

2014年度から2015年度にかけて、10拠点でCSR内部監査を実施。お客様からのCSR監査と合わせ、のべ75拠点でCSR監査を受審しました。このうち、労務リスクの高い中国内にある拠点については、すべての拠点で監査を受審しました。また、外国人労働者に関する強制労働が社会問題となっているマレーシアでは、2015年度に該当する自社生産拠点4カ所を対象に、自主的にCSR監査を受審しました。指摘事項については、各拠点で改善するとともに、CSR室が本社関連機能に情報を共有し、注意喚起や施策に反映させています。

また、CSR内部監査員養成研修を、2015年度は中国とマレーシアでそれぞれ実施し、2015年度までの受講者数は、のべ171名となりました。



▲ CSR内部監査員養成研修(マレーシア)

VOICE

新たな課題と向き合い、改善していくことが私の責務です

TDK-Lambdaクアンタン工場でCSR推進や監査を担当していますが、日々新たな課題と向き合い改善していく業務だと感じています。たとえば、マレーシアにおける外国人労働者の問題。円滑な雇用や労務管理の役割を担うのが人材あっせん業者ですが、中には社会的な問題を引き起こす業者もいるため、選択や契約締結には細心の注意を払うことは無難なこと、労働者の住環境監査の実施、強制労働につながるリスクのある就労に関するあっせん業者への教育等も実施しています。また、就労希望者に対しては、会社と直接面談する機会を設け、仕事や待遇の内容に虚偽や齟齬が生じないようにしています。新たな課題としては、今年受審した第三者機関による内部監査でEICCの諸要件に応じた体制構築が必要なことが明らかになり、こちらにも積極的に対応していきたく思います。



TDK-Lambda Malaysia
Sdn. Bhd.
Manager Human Resource
Koo Siew Chin



バイヤーとしての取り組み

原材料を調達するバイヤーとして、TDKはコミュニケーションを大切にしたCSR調達を行い、固い信頼関係を築きます。この取り組みが、お取引先様とTDK両社の企業価値を高めると考えています。

CSR調達の推進

TDK購買方針にもある「CSR調達」は、当社にとって重要な課題の一つです。当社は部品メーカーであるため、サプライヤーとしての立場で自社のCSRを推進する一方、当社のお取引先様に対してもCSRを求めていく必要があります。そのため、お取引先様にはCSRチェックシートへの回答を毎年お願いするとともに、回答結果に問題がある場合には、個別に改善を依頼しています。2015年度は、7社※のお取引先様の改善指導を実施しました。また、実態を客観的に把握する目的でCSR監査を実施。お客様への納入製品に関わる重要度、依存度などを勘案して、お取引先様を選定して実施しています。

※対象は、TDK株式会社と取引のあるお取引先様です。

主要委託加工先へもCSR監査を拡大

TDKでは、労働環境リスクの高い中国において、従来の資材取引だけでなく、依存度の高い委託加工先に対しても、2015年度よりCSR監査を拡大し実施しています。監査項目は、EICCで定めた分野のうち、労働、安全衛生、環境の3分野を対象とし、より製造現場に即した実態を確認する内容となっています。

2015年度は、6社のCSR監査を実施し、計78件の指摘事項がありました。指摘事項のうち、有害物質の保管管理やそれを取り扱う業務に従事する従業員に対する配慮不足が複数発見され、改善を依頼しました。



VOICE

サプライチェーン全体で取り組み、よりよい職場環境の実現に貢献します

私の仕事は、サプライヤーが私たちのCSR基準に適合しているかを確認することです。今やCSRはサプライチェーン全体にとって避けては通れない課題です。私の任務の一つであるお取引先様の実地監査では、従業員、社会、環境に関するプログラムの設定、実施状況、結果と利点について確認します。もし、CSRプログラムを持たないサプライヤーが存在した場合は、私たちの要求に基づくガイダンスを提供し、プログラム開発を支援します。こうした取り組みは必ずしも容易なものではありませんが、小さな一歩が大きな進歩につながると確信し、業務にあたっています。私の目標は、お取引先様がCSRの意義への理解を深め、意識を高めることで、製造業界で働く人々の環境や就労条件のさらなる向上に貢献することです。



EPCOS AG
Systems, Acoustics, Waves
BG, Head of Supplier
Quality Engineering
Gabriele Preu